

令和5年第2回新十津川町議会定例会一般質問通告表

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
1 (1)	加藤 敏晃	<p>1 「住民協働のまちづくり」について</p> <p>まちづくり基本条例や総合計画などで「住民との協働のまちづくり」がうたわれている。しかし、これまでの私の体感では、住民をお客様扱いしてしまっているケースが多かったと感じている。</p> <p>私は「住民との協働のまちづくり」とは、「住民が事業に参加すること」ではなく「住民が事業に参画すること」、「自分たちで事業を企画し実施すること」であると考えている。つまり、「住民がまちづくりに主体的に取り組む仕掛けの充実」が必要であると考えている。</p> <p>この「住民との協働のまちづくり」についてどのように進めるのか、町長の考えを問う。</p>	町長	
2 (5)	大畠 光敬	<p>1 ふるさと納税の今後について</p> <p>令和4年度までの4年間、当町におけるふるさと納税の寄附件数と寄附額は、毎年右肩下がりとなっている。ふるさと納税は、行政サービスの費用を負担する住民税を寄附金の形で預かるという他に、地場産品の応援という部分も含んでいるため、町にとっても重要な施策の一つと考える。</p> <p>町としてはこの現状についてどう考えるのか。また、今後に向けて具体的なアイデアをお持ちなのか、町長の考えを問う。</p>	町長	

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
3 (3)	深瀬美奈子	<p>1 観光振興のための地域おこし協力隊制度活用について</p> <p>新十津川町の観光施策は、観光振興計画に基づいて、4つの主要施策に取り組まれている。</p> <p>近年はSNSの普及が進んでおり、さまざまな場面で幅広く活用されている。例えば、町民に向けた発信はLINEが有効的である。Twitterはリツイート機能での拡散性が高く、誘客やキャンペーンに有効である。町外の方に向けて観光や町内店舗のPRを行う際は、画像がメインで一目で印象に残るインスタグラム、移住促進や町の施策など文書を読んでもらいたい場合はFacebookを使用するなど、一言にSNSといえど取り組むと奥が深く、成果を発揮するには専門的な知識や継続性が必要である。また、町民はもちろん、町外、道外からの移住者の目線で新十津川の日常を発信してもらうことで、しんとつかわの新たな魅力の発掘、分析を行うことも可能である。</p> <p>ふるさと公園を核として、さらなる新十津川町の観光振興のため、これらの施策に専門的に取り組む人材の確保が必要だと考える。</p> <p>そこで地域おこし協力隊制度を活用すべきと思うが、町長の考えを伺う。</p>	町長	

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
4 (4)	三師 優美	<p>1 保育園における待機児童ゼロに対する今後の方針について</p> <p>新十津川町は、人口減少に対する施策の基本目標「子育てしたい環境創出プロジェクト」の中でも出生率向上や子育て世帯の移住促進に注力している。</p> <p>そのような中で、過去6年間の待機児童の推移を見ると、毎年1人～5人の待機児童がいるのが現状であり、待機児童問題が解決していないことは問題であると考えている。</p> <p>今回の町政執行方針にもあったが、今後の子育て支援の充実に向けて、保育人材の確保や施設の拡張（増設、新設）についても含め、具体的にどのような方法で待機児童ゼロを目指すのか、町長の考えを伺う。</p>	町長	
5 (10)	西内 陽美	<p>1 除排雪事業について</p> <p>町長は、この度の町政執行方針に、任期4年間の重点政策として、6つの重点政策を示した。</p> <p>その中の、第1の政策「暮らしやすいまちづくり」で掲げている除排雪事業について伺う。</p> <p>執行方針では、除雪車の増台により除排雪体制を強化し、町民とともに安全安心な冬季の暮らしを目指すとするが、</p> <p>①現在の除排雪体制と、増台後の除排雪体制を比較するとき、何が強化され、除排雪作業はどう変わるのか。</p> <p>②住民の除排雪事業に対する意見で多いのは、除雪後の置き雪、道路左右の不均衡、道路交差部分の雪山に関するものである。</p> <p>これらの意見を、今後の除排雪事業の進め方にどのように反映していくのか。</p>	町長	